ダリヤを楽しもう

札幌普及所長　渡会孝五郎

人の心は清純なものであるがたまたま何かの支障があるとそれが曲げられてしまうことが多い。諺にも花より団子という言葉もあるが、戦後の食糧事情の悪い時は先ず食糧ということで僅かの空地でも食べる物を植込んでしまって、全く殺伐な時代を経たことは四〇歳台以上の方々は十分味わってきたことと思う。近頃は落付いて食糧事情も良くなり、所謂文化生活を楽しむようになって来たので、生活環境の中に特に心のいこいを求める諸々の計画がなされている。これに最も手近なものとして花木が取上げられて庭一ぱい色とりどりの調和を楽しみ、生活の一部面を占めるようになって来たのである。どんな生物でも同じことであるが成長を未来に向って希望し色々と手入れをし、其の間に虫が出、病が出、苦しみを越えて咲く花の色、形、香それぞれの特徴あるものが出た時の楽しみと和ぎはまたとない気持の良いものである。処が其の時々の花がくさんある訳であるしこれが選択は容易であるようでなかなかむづかしいものである。それは心は楽しむ方に向かっているが、いざ蒔付け植込みとなると面倒なものはいやになって来るものである。勢いなるべく手のかからない而も枯れないものに手をつけるようになる。それで手っ取り早い宿根草とか球根とかという面に手を出すのが人情になってくる。こんな時どんな花を選ぶべきかはその人々の思いで違って来ると思うし、また時期別によっても違って来るものである。きれいで植易くて長持ちする花と言うことになれば先ずダリヤをあげなければならない。

◎ダリヤ

ダリヤの来歴等については略すが高冷地が原産であるらしい。植物はやはり原産地の特性を生かしているものである。人の力でどんなくふうをしてもその自然の色を出すことは困難なものである。

私共の見るところではダリヤの花色は何んと言っても北海道、東北がさえて美しく感ずる。これはダリヤの性質そのものから来ることもあると思うし、また空気のきれいなことにもよるものと思われるが、気候的に最適である証左であると思う。温度は最高二〇～二五度、最低一〇度位が好ましいところでこの点から見ても北海道、東北地方が適地となるわけである。栽培の範囲は日本全国に及ぶがさきほどにも申したように色が鮮明にならないところが多い。花形によっていろいろあるがそのうち最も普通に作られているものは、カクタス咲き、デコラチューブ咲き、ショウ咲き、ポンポン咲き、アネモネ咲き、ピオニー咲き、シングル咲き、カラレット咲き等がある。

これも年により好みも違って来ているようであるが、近頃は中小輪が割合多くなって来ている。また色の配合は赤、桃が主体となり黄、白、紫がこれに次ぎ、明るい色が喜ばれている。デコラチューブは菊咲と称せられて菊の花に咲き方が似ている。花弁の幅広く首元が強い。カクタスは花弁細長く内側によれておってサボテンの花に似ている。

栽培法

○ダリヤの球根を買われる時は芽の太い余り伸びないものが良いようである。伸び過ぎると芽傷みがするから注意を要する。店頭に並べてあるものを見ると時には芽のないものがある。馬鈴薯と違って、芽のないものは絶対出ないから良く選ばなければならない。

○土質についてはそんなに気をもむことはないと思うが、ただ排水は良くないといけない。水分が多くなり過ぎると伸びが悪くなる。ウイルスの出が非常に目立って来るものである。

○肥料は一応の目度としてチッソ二二キロ内外、リンサン三二キロ内外、カリ二二キロ内外を標準として使えば良いと思う。米糠、油粕等は良く腐熟したものを使用するようにする。米糠、油粕を使用すると花色が鮮明となる。農家の方々であれば漬物の残物等をやると酸性の中和と兼ねて有効なものである。

植込みは余り深くする必要はない。浅根性であるから肥料も余り深くする要はない。幅広く施しておくことが大切です。

○植込の本数は種類によって異なるものであるが坪当たり六本くらいを標準に考えてやれば十分であると思う。

○仕立の方法

自然仕立と経済仕立と二つに分ける事が出来ると思う。この場合は一般家庭では自然のままになると思う。これはそれほど深く考える必要はないと思うし、花の咲き方も自然に咲いて長い間眺められれば良いので手間をかけずに仕立てた方が良い。

○経済仕立になるとまた別である。この仕立方はなるべくたくさん揃ったものを切らなければならないから、花葉をよく揃えることが大切である。そのためには天花を咲かせないよう摘花する。四～六本側枝を出して八～一二本切りとる。この場合葉柄を短く仕立て花梗を長く整一にすること。

○支柱はあった方が良い。竹または柳等が良い。

○切花として利用する時は外の露がなくなった頃水分の上昇が終わった頃を見計って切ってすぐに出荷するように気を使う。

水に浸すと却って萎凋が早くなるものである。

○十月以降まで咲かせて立派な花を見んとする時は、初夏の候に根元から出た側芽をとって挿木したものが却って良い花が咲くものである。

○根の貯蔵に当たっては根部の充実を待って掘り取るが強い霜に当てると芽の出るところが傷むので降霜前に掘上げ、簡単に乾燥して必ず茎を少々つけて切取ることが大切である。

○貯蔵にあたって注意する点は凍結させないこと、カビを発生させる程囲わないこと、ネズミの害に備えること、乾燥しすぎないようにすることなどで、翌年のために名札を附しておくとよい。